

月報 2023年 6月30日 No.389

石城山岳会

6月号

# 四方通信



石城山岳会事務局編集

5月登山教室「日立アルプス」

両神山（1723m）・四阿屋山（771.6m）

5月月例山行 両神山・四阿屋山

6月登山教室磐梯山

6月月例会山行「会津朝日岳」

# 5月登山教室「日立アルプス」

2023年5月14日(日)

参加者 山岳会会員18名・登山教室生8名

5月の登山教室は、日立アルプス(小木津山、羽黒山、神峰山、御岩山、高鈴山、助川山)の縦走でした。

隣の県に住んでいながら、その名称は初めて聞いたものであり、地図でも容易には見つかりません。しかも、電車で行くとのこと…。どんなルートなのか謎は深まるばかりです。

週間予報では週末は雨模様とのことでしたが、当日の雨は免れることができ、朝7時にJR小木津駅に到着すると、周辺は曇り空の市街地でした。これまでの登山教室では車で出発して登山口からスタートしたことと比べるとチョット変わった感じです。

今回の山行も人数がおおかったので4班に分かれて出発しましたが、ザックを背負った集団が住宅街をゾロゾロと歩いていくのは異様な光景だったかもしれません。

ほどなく茨城県の高鈴県立自然公園の入口となる小木津山自然公園に入りました。最初は小木津山だったようですが、正直、どこがピークだったのか分からないまま通り過ぎてしまいました。

北展望台からの眺望を楽しんだ後は、公園区域を出て山道に入っていきます。

その後しばらく登っていくと羽黒山に到着。山頂といえども周囲は樹林に覆われており見通しもきかないので、次の神峰山を目指して進みます。

神峰山では一転、遠くの海を見渡せる景観を望むことができました。かなたの山には、かつての大煙突と常磐道を渡る赤い鉄橋が見え、その向こうには日立の街並みが広がっていました。

次に目指すのは御岩山です。アップダウンを繰り返しながら進んでいくと山頂に着いたようですがパワースポットとして有名な「御岩神社」がありません。後で知ったのですが、神社は山の麓にあるとのことでした。

休む間もなく今度は高鈴山を目指して進んでいくと、ほどなく山頂に到着しました。

高鈴山山頂には大きな塔が乱立しており、ひときわ大きな薄緑色の灯台のような建物が目を引きまします。下山後に調べてみたらレーダー雨量観測塔とのことでした。

山頂は開けており、高鈴山の名と標高(623.3m)などが入った木柱や、木製テラスのような展望台がありました。みんなで昼食をとっていると雲行きが怪しくなってきたので、早々に下山を始めました。

山頂からの下りはコンクリート舗装された道路が続いており、膝に痛みが出てきたので「おむすび池」まで降りたところで、私はみんなと別れてエスケープルートに入りましたが、下りのアスファルト舗装路を30分ほど歩くことになり、少し後悔しました。

助川山市民の森駐車場で下山田前会長に捨ていただき日立駅で皆さんと合流することができました。日立駅から電車に乗り、皆さん最寄り駅で降りていきましたが、最後まで雨に会わず帰路につけたので良かったです。ありがとうございました。(文責：伊藤)

## 【コースタイム】

小木津駅7:00 →小木津山7:33 →羽黒山9:01 →神峰山10:15 →  
御岩山11:45 →高鈴山12:23 →日立駅16:22



# 両神山 (1723m)・四阿屋山 (771.6m)

2023年5月27日、28日

参加者 10名

かげつ斎苑をam3時30分出発し両神山荘に8時頃到着。駐車場は予約してあり登山道近く、トイレの隣りで絶好の場所である。日向大谷口から入山する表山道コース(通称)を進む。清滝小屋までは、薄川に沿って徐々に標高を上げて行く。沢に滑落しそうな細い道もあり注意が必要。日本百名山の一つで、山岳信仰の霊峰であり途中観音像もみれる。途中、弘法の井戸水場で水をくむ。

清滝小屋に到着、無人小屋は、立派なログハウスで大人数が泊まれる。清掃もされており、銀シート、敷布団が備えられていた。重いザックを下ろして寝床を確保し、昼食をすませ山頂へ。山頂に近づくにつれて徐々に急登の岩場の連続、登山の醍醐味も味わえる。山頂では、残念ながら富士山は見えず、今晚の泊地に向かう。清滝小屋すぐそばに、屋根付きの炊事場、テーブル、椅子があり、美味しい手料理、お酒、楽しい会話で今宵を過ごした。

翌朝、暖かいうどんで体を温めて下山、次の目的地、道の駅両神に車を停めて四阿屋山へ稜線を進む。山頂が近づくと、直登コースは危険のため通行止め、山頂へ巻いて登る登山道は岩場で急登であった。

2日間の秩父遠征を振り返ってみると、美味しい食べ物を頂き、くわがた草やツツジ等に癒されて、登山の醍醐味を味わった充実した山行でした。

(文責：種市)

1日目 日向大谷口(0830)ー清滝小屋(1128)ー両神神社(1250)ー両神山頂(1313)ー  
両神神社(1420)ー清滝小屋(1620) 行程 8.1km



2日目 道の駅両神(0855)ー四阿屋山山頂(1100)ー道の駅両神(1200) 行程 4.8km



# 5月月例山行 両神山・四阿屋山

2023年5月27日（土）～28日（日）

秋葉、種市、赤塚（園）、佐藤（春）、安部、国井、菊地、山中、西（重）、根本

5月の月例山行は、埼玉県の100名山両神山と四阿屋山に行ってきました。集合時間が午前3時30分と早くまだ目が覚めてない状態で運転は大変なことです。それにしても遠いですね。両神神社駐車場へほぼ予定どおりの到着、駐車場満杯、予約をしていた良かった。

## 1日目（5/27）

1日目は、清滝避難小屋で宿泊予定なので、シュラフ、マット、食材など荷物をザックに入れて登っていく。日向大谷登山口から会所までは、比較的平坦な道、ザックが重いながらも歩いてきた。ここから川を見ながら上っていく。結構な急登、ハアハア言いながら登っていく。途中の水場、弘法井戸になかなか着かない。少々ばてた人もでた。弘法井戸で今晚の料理の水を汲む、小屋までもう一息、でも結構急登だ。やっと清滝避難小屋についた。ザックを下ろしてお昼を取る。

ここから両神山頂へは、サブザックで登頂。直ぐに山頂へ行けるかと思ったら遠い。軽いサブザックでも登るのがつらい。石が滑るところがあり、怖さを感じた。ハイハイしながら神社を過ぎ、山頂へ着いた。眺望もいい、登ってきて良かった。帰りは、石が滑るところを注意して下りてきた。

清滝避難小屋へ着いたら夕食、みんなで楽しくワイワイしながら宴会となった。山では、山に登る他に飲み会の楽しみもある。この日は、横浜の山岳会7名と避難小屋に泊りとなった。そのほかにテント泊の方が数名泊まっていた。

## 2日目（5/28）

2日目は、まず下山、下りは楽だ。滑って転ばぬように注意して下りておく。一部トラブルもあったが概ね順調に登山口へ帰ってきた。

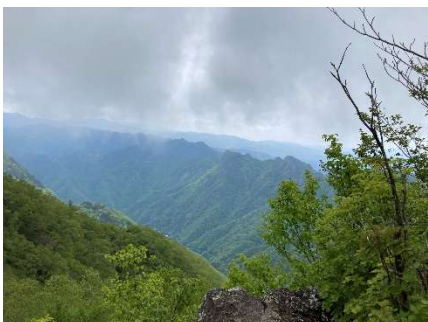
日向大谷登山口から車で移動して登山口「道の駅両神温泉薬師の湯」へ来た。今日登る山は四阿屋山。771mの低山。比較的なだらかなところを登っていくが、山頂直下は、急な鎖場を登る。なかなか楽しい山だ。登り終えたら道の駅で風呂に入り、蕎麦を食べて、一路いわきに帰ってきた。同行したみなさんありがとうございました。（文責：国井）

### 〈コースタイム〉

1日目 8:30日向大谷口→11:30清滝避難小屋→12:50両神神社→13:15両神山→14:20両神神社→15:00清滝避難小屋（泊）

2日目 6:00清滝避難小屋→8:10日向大谷口→9:10道の駅両神温泉薬師の湯→10:30四阿屋山→12:00道の駅両神温泉薬師の湯

両神山頂より



清滝避難小屋



四阿屋山頂

# 両神山



# 四阿屋山



# 6月登山教室磐梯山

2023年6月11日(日)

教室生 7名

山岳会 15名

当日は生憎の天気で朝から雨の為レインウエアを着てスタート、地味に長い上り坂を進み、地図とコンパスを使い、現在地・行き先を確認。途中から急登となり鉄の柵をつかまりながら登ります。天候不良で眺望を楽しめませんでした、様々な花が水滴にぬれてかわいい姿を見せてくれました。

特に磐梯山でこの季節しか見られないというバンダイクワガタを見ることができ感激。山頂へは雨とともに風もでてきたのであきらめ下山。お昼を食べる頃には雨もあがり足どり軽く裏磐梯スキー場に戻って来ました。

(文責 佐々木)

## コースタイム

8:00裏磐梯スキー場⇒9:00川上分岐⇒10:30櫛ヶ峰分岐⇒11:20川上分岐⇒13:00裏磐梯スキー場



# 6月月例会山行「会津朝日岳」

2023年6月17日(土) 18日(日)

会員28名

6月17日(土)

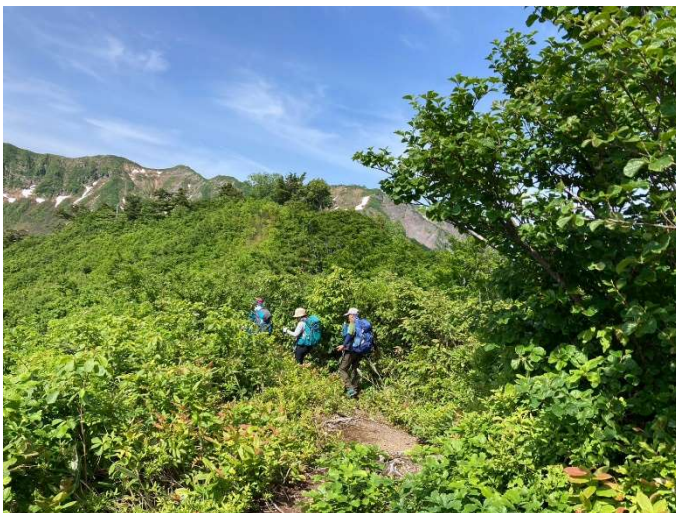
奥会津ただみの森キャンプ場へ移動。途中、ぶなと川のミュージアムを見学。

キャンプ場到着後に、いわきでの勤務が終わり地元へ戻られるメンバーさんの送別会を盛大に執り行いました。



6月18日(日)

会津朝日岳に登ります。朝6時に登山開始。赤倉沢と平行する登山道を歩きます。途中には数ヶ所、渡渉ポイントがあります。暫く歩くと赤倉沢沿いから森の中へ入ります。少しずつ登山道の斜度が増してきます。程なく水場「三吉ミチギ」に到着。冷たく美味しい水です。ここから九十九折の急登が続きます。人見ノ松という展望スポットに到着。正面に浅草岳が見えます。ここからは急坂に変わって所々岩場が現れます。足元に注意しながら登りました。叶ノ高手の手前で視界が開けると会津朝日岳から南へ伸びるなだらかな稜線が見えます。叶ノ高手まではきつい登りが続きますが、通過後は下り基調に変わり鞍部まで下ると程なく熊ノ平避難小屋に到着。





ここからの登りに備えて小休止。急坂を登り切ると雪渓が出てきました。すれ違った毎年登っているという登山者が、こんなに雪が少ないのはとても珍しいと言ってました。急勾配の岩場をクリアしトラバース道を行くと山頂です。絶景のご褒美をいただきました！



絶景を楽しんだので下山です。山頂直下の岩場の下りは要注意です。雪渓でロープを出して下りのサポートをしたので、皆安全にクリアできました。避難小屋まで下ったら、叶ノ高手まで登り返し。人見ノ松まで急坂を下ります。ここで休憩し九十九折の道を下ります。水場で休憩。冷たく美味しい水でリフレッシュ。赤倉沢まで戻って来たらなだらかな道を歩きます。暑くてなかなかハードでしたが、お天気と仲間に恵まれとても良い山行になりました。秋の紅葉時期に再訪したいです。

コースタイム 登山口～2:00～人見ノ松～1:30～避難小屋～0:50～山頂～0:40～避難小屋～1:20～人見ノ松～1:40～登山口



ルートは赤倉沢ピストンのみとなります。写真の他にも、たくさんの花が咲いていました。左から「ヒメサユリ」「マイツルソウ」「バンダイクワガタ」

〈文責：星（昭）〉